

## 令和5年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も、5領域それぞれの重点項目に対して各2つずつ計10の達成目標を掲げて取り組んだ。重点項目の内容は、令和5年度末の反省と学校運営協議会の委員の意見を参考にして、より現実的・具体的となるよう設定し取り組んだ。

「1週間あたりの家庭学習時間」については、学校全体で平均487分の結果となり、前年度の583分から大きく減少しており、生徒の学習習慣については依然課題が残る状況である。

「保護者同意の進路希望先決定率」については、3年生で95.6%、2年生で100%とどちらも目標に到達できた。進路ガイダンス、3年生の8限補習等を早い時期から実施し、個人面談による学力の把握、保護者との面談等が上手く機能し、生徒の進路意識を向上させることができたものとする。

「学校行事、生徒会行事、学校生活への満足度」については全ての行事で目標とする満足度を達成している。「読書習慣の確立」については、各自の達成度の平均が80%以上という目標に対し、54.2%の結果となり、活字離れが否めない。今後も興味のある本と出会える環境づくりに努めたい。

「教育活動への理解を深める情報発信の強化」では、保護者のホームページの評価が25点満点中20.1点とほぼ目標値を達成できたが、高評価には至っていない。行事の様子や部活動の記録などをこまめに投稿するなどしたことが評価につながっているが、本校の特徴的な写真の掲載を増やしたり、新たなSNS発信を提案したりするなどして本校の魅力発信方法の検討が必要であると考えている。

しかしながら、多くの項目で重点目標を達成していることを勘案すると、学校経営全体が健全で本校生徒に即しており、生徒が前向きな気持ちをもって学校生活を過ごした結果であると考えている。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

「悩みを相談しやすい学校づくり」については、全員面談の回数は目標を達成できてはいるが、人間関係などで悩みを抱える生徒が多数いる。外部の専門家とも連携し相談体制の充実に努めなければいけない。

学習面では、卒業学年以外の学習時間が伸び悩んでいる。小規模校の強みを生かし、一斉指導だけでなく個別学習指導をより充実させるなど、学習の躓きに早期に対応するとともに、主体的に学習に向かう動機づけをより積極的に行っていきたい。

学校運営協議会の委員からは、卒業生を中心に社会人のお話を聞く機会をもっとあればよいとの意見をいただいた。様々な体験や講座などの機会を設け、生徒自らの気づきや行動につなげていくことが必要である。

本校は小規模校であり、教員も生徒も変化に対応しやすい。良いアイデアは積極的に学校経営に取り入れ、さらに魅力のある学校となるよう改革を進める。